

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2891900066		
法人名	株式会社 ファイブシーズヘルスケア		
事業所名	まんてん堂 グループホームおの南		
所在地	小野市市場町1080-1		
自己評価作成日	平成30年10月20日	評価結果市町村受理日	平成30年12月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティ・サポートセンター神戸		
所在地	神戸市東灘区住吉東町5-2-2 ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	2018年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

まんてん堂おの南は地域密着型として、地域の方にまんてん堂を知って頂く努力を行っています。地域の方に受け入れて頂く為に、他法人の事業所と連携し、祭などに参加をしています。今年は地域の夏祭りに飲み物販売の店を出店し、「毎年ありがとう。もうこの祭りには欠かせない存在や」と言うお言葉を頂きました。秋祭りには、神輿の休憩場所として中庭を提供しています。まんてん堂からは豚汁を振る舞いお子様から年配の方まで喜んで頂きました。自治会長様からは、その後お礼のお手紙を頂きました。自治会長様は、9月の運営推進会議に初めて参加して下さり豪雨の時の話をされ、その中でまんてん堂のすぐ横にある川は比較的安全であると聞いていますと説明して下さいました。他の家族様は自治会長が言うのであれば間違いないと、とても安心されていました。これからも地域の方の役に立ち、必要とされる施設を目指していきたいと思えます。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所独自の理念を職員協働で作ると共に、全職員が2ヶ月毎に個人活動目標を立て玄関の壁に掲示している。地域との付き合いは深まり、小学校との相互交流、夏祭・秋祭での参加・協力に加え、今後は草刈にも参加する。運営推進会議には複数の家族が加わり、終了後の家族茶話会で意見・要望を伺う。3ヶ月毎の本人写真付き便り、2ヶ月毎の通信「まんてん日和」は家族から「様子がよく分かる」と好評である。誕生日には喫茶店や回転寿司に行き、中庭でチェロの演奏を楽しんだり家族と墓参りするなど外出機会は多い。月2回の食事レクでは入居者が包丁も使い調理を楽しんでいる。清潔な室内、落ち着いた雰囲気の中で、入居者は安定している。重度化した場合の説明・体制も十分なことから家族の希望もあって、今年は2人の安らかな終末を支援した。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『やさしさと笑顔あふれるまんてん堂』をおの南の事業所のキャッチコピーとし、全職員は周知している。笑顔に関しては、年に1度、目標に取り入れ職員の再認識を図っている。	職員アンケートを元にした事業所独自の理念を法人の理念と共にユニットの壁に掲示して職員で共有し、それを実現するために、2ヶ月に1回主任のアドバイスを受けて各職員が自己の活動目標を立て、玄関の壁に顔写真と共に張出している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コープの移動販売に週に1度来て頂いている。入居者様が買い物されたり、地域の方が来られ買い物されたりする場を提供している。	従来からの夏・秋の祭りでの付き合いに加え、今年の自治会長との交流を機に地域総出の草刈へ来年から参加することとなった。市場小学校とは入居者・職員が一斉下校の見守りを行い、4年生が来訪してメッセージカードと歌をプレゼントする相互交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症啓発活動のラン伴(ラントモ)に参加している。他法人の事業所と協力し、行政への働きかけや、地域の方の参加を呼びかける活動をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催し、地域の方や、家族様には参加して頂いている。事故報告では、厳しい意見や質問があがり、家族様の思いに伝えられるいい機会になっている。今年は豪雨時の対応や不安について話し合えた。	併設の小規模多機能型居宅介護と合同で運営推進会議を行い、議事録はグループホームのみで作成する。複数の家族、自治会長、市職員等が参加して、毎回活発に質疑・意見交換を行うと共に、薬剤師等の専門家の講話も組み入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の方とは、普段から市役所で顔を合話し話す機会が多く、情報はこまめに報告している。運営推進会議には市町村の方が参加して下さりケアや地域交流の内容は理解してくれている。	開設時から市役所とは連携が取れており、運営推進会議には市職員と地域包括支援センター職員が交互に出席している。事業所が地域活動や社協などとの相談で市役所を訪問する機会にも、必ず市職員と交流し情報交換したりアドバイスを受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新入職員には法人の研修にて身体拘束の研修が必須となっている。身体的拘束適正化検討委員会を発足し、3か月に1度は検討会を実施している。また必要な場合は例外3要件、5手続を念頭におき指針に沿った対応をしている。	年1回は身体拘束に関する研修を行う。事故防止のため門と2階ユニット入口は施錠しているが、建物の玄関と1階ユニット入口は開錠している。足踏みセンサーマットや訪問看護師の要請でターミナル時に設置する4点柵については家族に説明し承諾を得ている。	

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回研修を行っている。グループホームで起こりやすい虐待については、繰り返し研修を行い、周知徹底に努めている。	年2回の研修は1回を身体拘束と併せているが、来期からは虐待防止のみに絞った研修として一層徹底する予定である。月1回の面談で職員のストレスを把握し、事故対策委員会で毎月不適切ケアについてチェックして、虐待抑止に努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されている方はいない。社内研修を行ない、職員に周知を図っている。	単身高齢者が少ない地域特性を反映して成年後見人制度の対象者は開設以来まだ居ないが、一昨年度まで年1回の研修は行ってきた。今年度は計画作成担当者が社協の行なう中堅職員向け権利擁護研修を受講する予定である。	成年後見制度を必要とする高齢者は今後貴事業所の地域でも増加すると予想されます。権利擁護に関する研修を継続して、職員の対応力を維持・向上していくことを期待します。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様の不安や疑問は必ず確認を行ない、説明にて納得して頂いている。できる事、出来ない事などを説明している。	契約時には管理者が重要事項説明書をもとに、文書を読み上げながら1時間半から2時間かけて十分に説明し納得してもらう。通院することは可能だが点滴など医療的な措置は行えないなど、出来ること・出来ないことも説明し理解を得ている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置している。家族様対応は管理者・計画作成がするようにしており、家族様から意見を聞き出しやすい体制にしている。	家族の来訪時には必ず管理者が計画作成担当者が要望や意見を伺うようにしている。運営推進会議及びその終了後に開催する家族の茶話会でも意見・要望を伺う。最近では家族から食卓での席位置の変更要望が出て対応する等した。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員と月イチ面談を実施し、職員から意見を聞く場を作っている。申し送りなどで、本社からの発信は職員に伝達し、意見は聞いている。聞いた意見は本社部長との月イチ面談で報告している。	管理者が月1回の面談で職員の意見を聞き取っているほか、カンファレンスや委員会などでも職員が意見を出している。最近では従来から問題になっている施設と周辺の雑草繁茂に対して、職員参加による草刈や防草シートの導入が提案され実施するなどした。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	半年毎の考課表を本社に提出し、職員個々の評価を代表者は把握している。管理者研修で、管理者と代表者と話をする機会があり、職員や施設の状態を報告している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者を招集し社内研修を実施し、各事業所で管理者から研修を行っている。また社外研修は、管理者が適切な職員を推薦しを受講している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は小野市内のグループホーム連絡会を定期的で開催しており、運営状況や困難事例などの意見交換をしている。職員も同様、定期的に交換研修を開催し情報交換、意見交換をしている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前面談にて、御本人の主訴を確認し、情報は職員に発信し、共通認識で受け入れを行っている。		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には御本人の主訴、家族様の主訴を聞き食い違いのない事を確認し、食い違いがある場合は、どのように対応するか明確に家族様に説明を行っている。		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前面談は管理者と計画作成と同行し、現状を見極めグループホームが最適かを勘案している。		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームとは、入居者様の住む場所である事、入居者様の生活している空間。職員がその空間に入り、出来ない事を支援していると教えている。		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様が出来る事は家族様に協力して頂き、出来るだけ家族様に接点を持って頂くようにお声掛けをしている。		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族様や関わりのある方の面会に制限なく、いつでも好きな時間に来て頂いている。	面会時間に制限を設けていないので夜8時過ぎても来客がある。家族の協力を得て墓参りや一時帰宅などを行っているほか、行きつけの美容院に居室担当者が定期的につき添って行ったり、馴染みの歯科医や美容師に来てもらったりしている。	
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性優先の席配置にしており、カンファレンスなどで、個々の様子の確認を把握をしている。問題がある場合は、職員同士で話し合い、席替えもしくは食事以外の席配置で対応している。		

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された入居者様の家族様に運営推進会議の参加の声掛けを行い、参加して頂いた。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者様からの希望があった場合は希望に添うようしている。朝食が米飯の入居者様がパン食の方を見て、「私パンが好きやねん」と言われた為、家族様に報告し、パン食に変更した。	入居前の暮らしをアセスメントシートから把握し、居室担当者を中心に本人本位の立場でとらえている。意思疎通が困難な方には家族や関係者から聞き取り、日々の行動や表情からくみ取り、一人ひとりの視点に立った把握の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入浴の際、昔話などをしながら生活歴などを聞くようにしている。聞いた内容は職員間で情報共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様には、担当職員がついており、担当には「入居者様の日々の様子や変化を分かりやすく家族様に報告する」という役割がある。その為、職員は担当の入居者様の現状は把握できている。変化があった場合は、カンファレンスで発信している。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにて、居室担当職員からの気になる点の確認している。職員と計画作成が必要なケアを話し合っている。その上で介護計画書を作成している。	毎日モニタリング用紙に入居者別の短期目標に添った記入を行っている。月末に各ユニットでカンファレンスを行い、6カ月毎にサービス担当者会議を開催し関係者や家族ともモニタリングを行い介護計画に取り入れて作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員には入居者様の「特変」について理解してもらって教育している。いつもと違うと感じた時には必ず、個人記録に記入、申し送りして発信し情報共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族様の介護力はそれぞれである為、家族様の出来ない部分を補足するようにしている。家族様からの相談には応じ、出来る範囲で協力している。		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行き慣れた美容室に、入居されてからも行かれている入居者様がおられる。ご本人の楽しみとなっているので、お元気な間は行き慣れた美容室に通ってもらう。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診が必要と判断した場合は、必ず家族様に連絡し、家族様対応か施設対応か確認し、受診を行っている。受診先は、かかりつけ医優先で対応している。	本人、家族の希望する以前からのかかりつけ医の受診を優先しているが、契約時に事業所の協力医の説明を行い、変更する場合もある。開業医や専門外来は主に家族が付き添っているが、緊急時ややむを得ない場合は職員が通院介助を行い、家族に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間365日対応の訪問看護ステーションと連携している。体調の変化や、急変時相談できる関係性を築いている。職員は、2週間に1度の訪問看護の対応をし、訪看に相談や助言をしてもらっている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は情報提供書を持参し、入居者様の状態をきちんと伝えている。地域連携室の担当の方とも話す機会を増やし、話し易い関係作りを行っている。退院に対しての、施設からの希望は伝えている。	入院時には本人の様子や支援方法を伝え、1週間後に管理者、計画作成者がお見舞いに行き、病院関係者と話し合っている。退院に関しては家族、病院、事業所の関係者がカンファレンスを行い、スムーズに安心した生活が続けられるように退院計画を立てている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については入居時の契約の際に説明をしている。重度化した場合は、早い段階で家族様に状態の連絡をし、医療機関にも報告・相談・連絡しムンテラの開催を行っている。	入居時の契約の中で、重度化した場合の対応に関わる指針を説明し同意書で支援内容を確認している。本人の体調を見て、主治医、家族、職員、看護師などで話し合い看取り介護の計画を立てる。今年は2人の安らかな終末を支援することができた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員には急変や事故時の緊急連絡方法を周知させ、指示ができる状態にしている。同敷地の小規模と連携し、急変や事故は対応している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回入居者様参加の避難訓練を行っている。夜間想定避難訓練も実施した。運営推進会議で災害時の避難方法などの意見交換を行った。近隣の方からは、7月の豪雨時には気にかけて下さるお言葉を頂いた。	今年の7月には地域一帯に豪雨が続き、避難勧告も発令された。南に川があり氾濫が心配されたが、水位をみながら判断し難を逃れることができた。年2回の避難訓練は消防署と連携して行っている。災害時には神戸の法人本社から救援物資が届くことになっている。	昨今、想定外の災害が続出しています。土砂崩れや道路事情も勘案し、備蓄品は2～3日分は用意しておいた方が安心です。また停電に備えた場合の備品など、今一度見直して検討されることを望みます。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には入居者様を敬う気持ちを持つことを伝えている。事故対策委員会では不適切ケアの確認を行なっているが、入居者様に対しての言葉かけの確認を行なっている。	日々の業務の中でも不適切な言葉かけや対応がないように職員間で気をつけ合っている。トイレに行きたがらない人は、洗面所に誘ったついでに行くなどの工夫をしている。一人ひとりの尊厳が損なわれないように、ミーティングで検討している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様には、希望や自己決定の機会を設けているが、認知症の進行で自己決定が難しくなっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様のペースでの生活リズムを職員には発信している。入浴や食事など、御本人の希望を優先している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時には、整髪して頂いている。美容室に行きたい、毛染めをしたいなどの希望があった時は、家族様に連絡し、訪問美容師の方に来て頂いている。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事委員が食レクのメニューを考えている。入居者様の嗜好や、旬の材料を使ったメニューにしている。出来る事は入居者様にしている。	業者から届けられたものを温めて盛り付けしている。月2回は食レクを計画し、ちらし寿司、お好み焼き、松茸ご飯などを手作りした。全員マスクやビニール手袋を付けるので、作業がやりにくいですが上手に包丁も使いお料理作りを楽しんでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の記録に、毎食事の摂取量を記入し、食事摂取量の把握が出来ている。食事が進まない入居者様には、家族様の了解を頂き嗜好品を提供している方もいる。水分摂取量が少ない入居者様は個別で水分計測を行い、水分摂取を心掛けている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、歯磨き、義歯洗浄を行っている。仕上げ磨きが必要な方は、介助にて歯磨きを行っている。定期的に歯科往診にて、口腔ケアを受けている。毎月歯科衛生士より、口腔ケアの指導を受けている。			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はトイレで行なう、との考え方で支援をしている。尿意、便意がなくなり、トイレに行かれなくなった場合も定期的にトイレ誘導を行い、トイレで排泄出来る様に支援をしている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、できるだけトイレでの排泄を行っている。車いすの方が増えて、リハビリパンツとパットを利用することが多くなったが、常に職員間でその方に適した快適な状態かどうかを検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各入居者様の排便記録を付けており、定期的に排便があるように対策を行っている。便秘気味の方には個別でヨーグルトやヤクルトを購入して頂き、排便を促す努力を行っている。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間にこだわりのある入居者様には、希望の時間に入浴をして頂いている。	週3回の入浴ができるように、一人ひとりのその日の気分や体調を見ながら随時行っている。重度の方には2人の職員が支えて湯船につかり、気持ちよさを楽しんでもらっている。ゆず湯やしょうぶ湯も季節に合わせて行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、希望に応じて居室で休まれている。夜間は、各入居者様の入眠状態を職員間で情報交換し、安眠しやすい環境を作っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報ファイルを作り、個別で服用薬の効能がわかるようにしている。薬に変更があった場合は申し送りノートで発信し状態に変化があった時は記録に残すようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人のできる事、喜ぶ事など居室担当者は見つける努力をしている。カンファレンスで発信し、情報共有し、個別対応の時間を作る様にしている。居室に長テーブルを置き、ぬり絵を楽しまれる入居者様がいる。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は中庭で毎朝体操をしていたが、現在車椅子の方の割合が増え行えなくなった。気候のいい時期は、中庭でチェロの演奏を聴く事がある。誕生日外出で、本人の希望を聞き外食をしている。	天気の良い日には車いすの方も中庭に出て外気浴や気分転換を図っている。家族の来訪時に一緒に喫茶店や馴染みのお店に出かける人もいる。「まんてん日和」通信には季節ごとの行事の参加や本人の笑顔が掲載されて、家族にも様子が伝わっている。	車いすの方が多くなり、全体的に徐々に入居者の重度化が進むことが予想されます。今後の外出支援の方法や取り組み方について家族や職員で話し合いし、今の努力がさらに続けられることを期待します。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に、金銭管理は入居者様で行なっていない。必要に応じ事業所で立替払いをしている。		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が家族に電話がしたいと言われたら、職員が電話を掛け話しをしてもらっている。親戚からのお手紙の返事を書いてもらっている。		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	定時に温度確認をし、過ごし易い温度管理を行なっている。壁画は広報委員が作成し、季節を感じれる工夫をしている。居室の名札のまわりにも季節を感じてもらえる飾りを貼っている。	1階のリビングのテーブルには色とりどりのコスモスが花瓶に飾られて、秋の風情が感じられる。居室前の名札にも紅葉などの切り絵があり季節を感じる工夫がなされている。共用部分は掃除が行届いて、清潔感が保たれている。	
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	字合わせやパズルなど、気の合う方と並んで座って頂き遊ばれる事がある。合同レクリエーションの時は、違う階の方とソファに座り歌を歌われる事がある。		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に必要な物がある時は家族様に今まで使っていた物がないか確認し、あれば持参をお願いしている。	ベッドと布団はレンタルで、その他は以前からの本人の使い慣れたタンスや椅子、テレビなどが置かれている。愛用のスタンドや化粧箱もあり、笑顔の写真などが飾られていた。全室が南か東に面して田園風景がながめられ、落ち着いた雰囲気となっている。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や開け方など、自身で出来る様に工夫をしている。トイレの棚の上のバットなどを自分で取っておられる入居者様には、バットが無くならない様補充し、出来る事はして頂いている。		